

スプレー缶による事故に



消費者ホットライン
188
(嫌や!泣き寝入り)

お問い合わせ 消費生活センター(平日) 午前9時~午後4時 ☎57-8143

新潟県消費者協会 佐渡地区講演会

日本では食品ロスが年間600万トンもあります。この「もったいない」を「生かす」取り組みやフードバンクについて、講演会を開催します。

日時 9月5日(木) 午後2時~3時30分

会場 アミューズメント佐渡

講師 NPO法人フードバンクにいがた
真木 英明さん

定員 70人

申込期限 9月4日(水)

お問い合わせ・お申し込み

県消費者協会事務局

☎025-281-5558

市消費生活センター

☎57-8143



【アドバイス】
火気のある場所での使用は、引火の可能性があります。スプレー噴射中や噴射直後は火気に注意しましょう。
また、スプレー缶は高温になると破裂することがあります。夏場の自動車内や直射日光が当たる場所には放置しないようにしましょう。

【事例②】
ガスコンロの火がついているそばで、使用済のスプレー缶に穴を開けたら、内容物に引火した。

【事例①】
服の上から冷却スプレーを噴射し、ライターでタバコに火をつけたところ、衣服に着火した。

殺虫剤や虫よけスプレー、冷却スプレーなど、スプレー缶製品に関する事故情報が全国の消費生活センターに寄せられています。

編集後記

6月18日に発生した山形県沖地震に関連して津波避難の特集記事を掲載しました。

津波の恐れがあるときは、まずは高いところに避難していただき、津波被害の恐れがなくなったら避難所へ移ることが基本ですということをお伝えするつもりで記事を書きましたが、皆さまにわかりやすくお伝えすることの難しさを感じています。

避難に関する情報をいち早くお伝えすることや避難所の速やかな開設といった課題がまだ残っています。課題への対応策を検討した上で、今後も特集記事を企画し、皆さまにご案内していきたいと思っています。

(K.O)

講演会では、講師の山本家は福井藩士を先祖とし、1630年に佐渡に渡り、相川で金銀山の仕事で稼ぎ、真野新町に転居して廻船を中心に商家を築き、佐渡奉行所の宿泊所本陣となったことや、6代は町年寄となって文化的方面に向かい、12代の山本修巳先生へと近代になっても続いているお話など、ふるさと佐渡のことをもっと知りたいと思う首都圏在住の方々にも佐渡への理解や愛着・誇りを育む講演会でした。

また、佐渡市から「ふるさと納税」の説明があり、佐渡の活性化に応援貢献したいと思う方々に役立つ制度の仕組みや「お礼の品」等の紹介がありました。

(文責: 佐渡市東京事務所 伊豆野 泰弘)

第12回文化講演会開催

7月13日、東京都渋谷区のアイビーホール青学会館で、首都圏佐渡連合会主催による第12回文化講演会が開催され、146人が参加しました。

新潟日報文化賞を受賞された歴史研究家、真野新町在住の山本修巳先生を講師に、「来島400年・山師(鉱山採掘業)の先祖から」と題して、佐渡の歴史、文化、風俗について講演をしていただきました。



山本修巳先生



首都圏情報コーナー